

Rotary

IMAGINE
ROTARY「変化する時代こそ、変わらない絆づくりを」
2022～2023年度 ジェニファー・ジョーンズ RI会長テーマ

WEEKLY BULLETIN

2023年2月16日(3445例会)(創立72周年) 呉ロータリークラブ週報 NO.3359

■呉RC 2022～2023年度テーマ 「変化する時代こそ、変わらない絆づくりを」

会 長 増 岡 真 一
副 会 長 太 刀 掛 祐 之 幹 事 中 崎 誠 会長エレクト 大 上 功
直前会長 福 田 多 喜 二 会 計 和 田 昭 会場監督 中 河 原 圭 司

(事務局) 〒737-0045 呉市本通4丁目8-12 (例会場) 〒737-0051 呉市中央1丁目1-1 呉阪急ホテル
呉商工会議所ビル南館7階 705号室 ☎(0823)20-1111 FAX(0823)20-1120
☎(0823)24-4411 FAX(0823)21-5692 (例会日時) 毎週木曜日 12:30～13:30
E-mail▶kure3rc@urban.ne.jp HP/URL▶http://www.kurerotaryclub.jp My Rotary▶https://my.rotary.org/ja/user

今週のメインプログラム

呉 RC 電子化特別委員会担当例会

次週のメインプログラム

ロータリー創立 118 周年記念 4RC 合同例会
森沢ホテル 4 F 12:30～14:00
「大和を通じて平和を考える」
海軍史研究家 相原 謙次 様

第 3444 例会記録【2月2日(木)】

【プログラム】 平和と紛争予防 / 紛争解決月間

国際奉仕委員会担当例会

外部講師

「ウクライナ人道危機と国際人道法」

日本赤十字社 事業局副局長・国際部長 田中 康夫 様

国際赤十字・赤新月運動の概略から、ICRC（赤十字国際委員会）のウクライナ紛争地帯における保護活動と救援活動、IFRC（国際赤十字・赤新月社連盟）の連盟緊急救援アピール、国際人道法の基本原則とウクライナ危機における実態、日本赤十字社に寄せられた海外救援金等についてご説明いただきました。

【出席率】 前々回 91.18% 今回 89.71%（会員 72 名・欠席 7 名・免除 4 名）

【来客】 ◇外部講師 日本赤十字社 事業局副局長・国際部長 田中 康夫 様（Zoom でご出席）

【他クラブ出席者】 ◇福田・中崎君（1/29 第 13 期 RLI-2710 パート 1） 2 名

【欠席者】 ◇稲葉・海生（知）・高橋・多賀・武田（信）・三宅・山村君 7 名

【出席免除者】 ◇宇都宮（五）・大矢・奥川・海生（孝）君 4 名

【幹事報告】 ◇RI…ROTARY 2 月号

◇RI 日本事務局財団室…財団室ニュース 2 月号

◇RI 第 2710 地区 石川ガバナー…ガバナー月信 2 月号（配付）

◇RI 第 2710 地区事務局…2025-26 年度ガバナー候補者推薦について。

東広島 21 ロータリークラブ 土肥 慎二郎 氏

◇（公財）ロータリー米山記念奨学会…寄付金に対する確定申告用領収書が届いております

（対象者に配付）

【委員会報告】 ◇川畑 直也 ロータリー情報・研修委員…ロータリーの友 2 月号のご紹介

【S.A.A】 ◇会員誕生日・配偶者誕生日・結婚記念日のご紹介

◎ニコニコ基金金額 35,000 円（累計金額 1,189,000 円）

第一回中間報告

国際ロータリー第 2710 地区 2022-2023 年度 グローバル奨学金奨学生：鈴木 健斗

1. 基本情報：

派遣ホストクラブ及びカウンセラー：

呉ロータリークラブ、大之木 小兵衛 様

受入ホストクラブ及びカウンセラー：

Rotary Club of Providence, Mr. Bill Applegate

教育機関：ブラウン大学公衆衛生大学院

専攻分野：公衆衛生修士号（マインドフルネス専攻、UG/MPHプログラム）



2. 学業面での成果：

私の所属するマインドフルネス専攻は今年度新設され、公衆衛生というとても幅広い分野でも特にマインドフルネスが与える心身の健康への効果に興味を持った学生が集まった、世界的にも大変特徴的な公衆衛生修士号であると言えます。1年を通して必須科目2.5単位分、選択科目4単位分の計6.5単位分（1授業基本1単位）を取得し、修士論文を執筆します。前期は、授業外でもさまざまな学術研究に携わる機会に恵まれ、マインドフルネスの健康における影響についての授業の授業補佐として毎週の小テストの作成、課題の添削などを行わせていただきました。

この他に、マインドフルネスの妊娠高血圧症候群の予防に与える効果の実証研究における被験者の心拍変動のデータ分析、コネチカット州ハートフォードでの低所得層の青年のメンタルヘルス向上へのマインドフルネスの効果に関する質的研究の実施、エリック・ラウクス氏が考案された「マインドフルネス血圧低減法」プログラムをコネチカット州のネイティブ・アメリカン、モヒガン族の方々の文化に沿った形に変更するプロジェクトへの参画、また慶應義塾大学医学部小児科有光威志先生が主導しておられる「ハイリスク新生児

医療を必要とした家族の社会支援のニーズとその生活実態に関する調査」のデータ分析及び論文執筆など、様々なプロジェクトに核メンバーとして携わらせていただくことができました。

3. 受入地区でのロータリークラブとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

渡米前から受け入れ先のプロビデンスロータリークラブカウンセラーのBill Applegate様とeメールを通して連絡を取らせていただき、渡米後すぐに前会長の奥様、Holly様、そして長年娘様が日本に暮らしていらっしゃるというMary Brewster様4名でのランチにお誘いいただきました。現会長のSteve Hug様を含め、皆様大変気さくに話しかけてくださり、前期中に3度プロビデンスロータリークラブのイベントに参加させていただき、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。プロビデンスロータリークラブが全面的に支援していらっしゃるプロビデンス市内の公立学校における識字率向上プロジェクトなど様々な奉仕活動に携わっていらっしゃる方々から直接お話を伺う機会も多くあり、とても実りある交流をさせていただいています。



4. 今後の目標

前期は、履修した全ての授業で最高評価のAをいただきました。後期も授業はもちろん、学士論文のジャーナル提出、修士論文の執筆及びジャーナル提出、現在従事している各研究プロジェクトの発展などにも引き続き全力で取り組んでいきたいです。